

中長距離フェリー分野における受入環境整備の現状把握・目標設定

- 内航旅客分野における訪日外国人旅行者の受入環境整備に関するアンケート調査を2018年度に実施。
- 基幹航路である中長距離フェリー航路に係る受入環境整備の現状を公表し、今後の整備目標を設定。
- このような受入環境整備の現状公表や目標設定は、海事分野では初の取組。
- 今回設定した目標達成に向け、フェリー・旅客船分野での受入環境整備を推進。

調査の概要

中長距離フェリー航路や一定の旅客輸送人員を有する航路、観光需要が見込まれる航路等を運航する旅客船事業者を対象に、訪日外国人旅行者の受入環境（通信（Wi-Fi）環境、多言語対応等）の整備状況やニーズなどアンケート調査を実施。（2018年度）

対象航路	事業者数	航路数
中長距離フェリー航路	17	21
年間30万人以上の旅客輸送人員を有する航路	54	56
年間20万人以上 " (一部)	12	15
年間10万人以上 " (一部)	18	30
その他、観光需要が見込まれる航路等	19	23
合計	120	145

中長距離フェリー航路における受入環境整備の現状と目標について

基幹航路である中長距離フェリー航路においては、船内や会社HPにおける多言語情報提供や船内Wi-Fi環境整備等の6項目について、現行整備率も8割～10割と高い状況にあり、2020年度末に100%の整備水準を目指す。

	中長距離（全21航路、全59隻）		
	現状（2018）	目標（2020）	
船内における多言語情報提供	20航路	95.2%	100.0%
会社HPにおける多言語情報提供	16航路	76.2%	100.0%
船内Wi-Fi環境の整備	19航路	90.5%	100.0%
船内トイレの洋式化	59隻	100.0%	100.0%
インターネット予約	17航路	81.0%	100.0%
インターネット予約の多言語化	9航路	42.9%	80.0%
インターネット決済	14航路	66.7%	85.0%
インターネット決済の多言語化	1航路	4.8%	65.0%
クレジットカード	21航路	100.0%	100.0%

目標の達成に向けてさらなる受入環境整備の推進を図り、海事観光分野におけるさらなる訪日外国人の呼び込みに繋げていく。